



令和 6 年

消防統計

火 災 統 計

救 急 統 計

救 助 統 計

大崎地域広域行政事務組合

消防本部

目 次

第1章 火災統計

1 大崎管内における火災概要	1
火災件数	1
火災種別ごとの火災件数	2
月別の火災件数	2
2 死傷者等の発生状況	3
3 損害額・出火率	4
4 出火原因	5

第2章 救急統計

1 大崎管内における救急業務の実施状況	6
2 事故種別出動件数及び搬送人員状況	6
3 救急隊別出動状況	7
4 市町別出動状況	8
5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況	8
6 月別救急出動状況	9
7 収容先別搬送人員状況	10
8 ドクターヘリ要請件数状況	10
9 救急隊員の行った救急処置状況	11
10 P A連携出動状況	12

第3章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況	13
2 性別・年齢別受講者状況	14
3 講習会開催の推移	15
4 講習会の効果	16

第4章 救助統計

1 救助業務の概況	17
2 救助人員の傷病程度	18
3 救助事案発生場所	18

◆利用上の注意

- (1) 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とにならない。
- (2) 統計表中、「0.0」は集計した数値が表章単位に満たないものである。

第1章 火災統計

1 大崎管内における火災概要

火災件数

令和6年中における総火災件数は49件で前年より2件減少し、約7.4日に1件の割合で発生したことになります。

また、市町別の火災件数は、大崎市27件(55.1%)、色麻町3件(6.1%)、加美町9件(18.4%)、涌谷町3件(6.1%)、美里町7件(14.3%)となっています。(表1・表2)

過去10年間の火災件数を比較すると、令和3年に記録した過去最少件数と同数になります。(図1)

表1 市町別火災件数

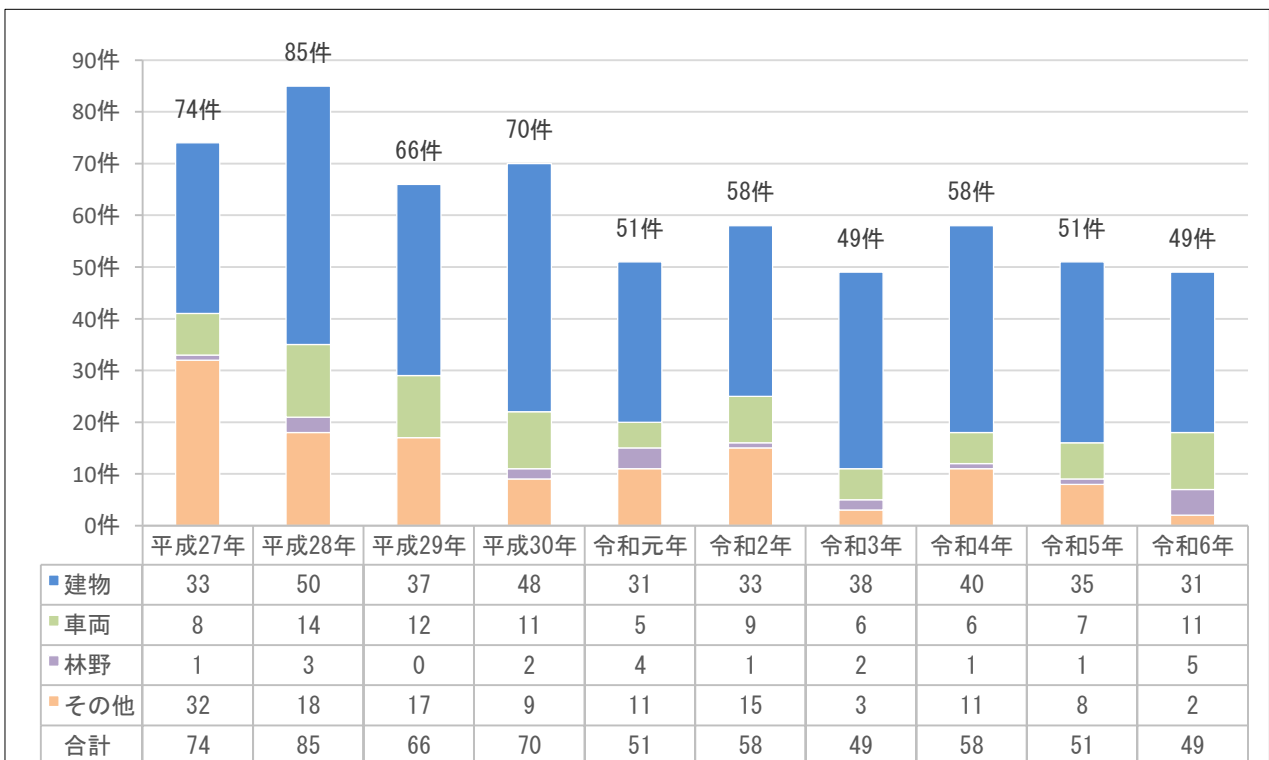
	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	計
令和6年	27	3	9	3	7	49
令和5年	32	1	10	4	4	51
比較	▲ 5	2	▲ 1	▲ 1	3	▲ 2

表2 市町別火災総括表

	火災件数					焼損棟数	り災		死者	負傷者	世帯数	人口
	合計	建物	車両	林野	その他		世帯	人員				
大崎市	27	18	7	1	1	31	15	42	2	5	53,069	122,035
色麻町	3	1	1	1	0	1	1	1	0	1	2,091	6,103
加美町	9	4	2	2	1	7	2	2	0	1	8,260	20,970
涌谷町	3	2	0	1	0	3	0	0	1	0	5,966	14,249
美里町	7	6	1	0	0	9	3	8	0	0	9,390	22,826
大崎圏全体	49	31	11	5	2	51	21	53	3	7	78,776	186,183

※世帯数・人口は令和6年12月末現在（宮城県住民基本台帳より）

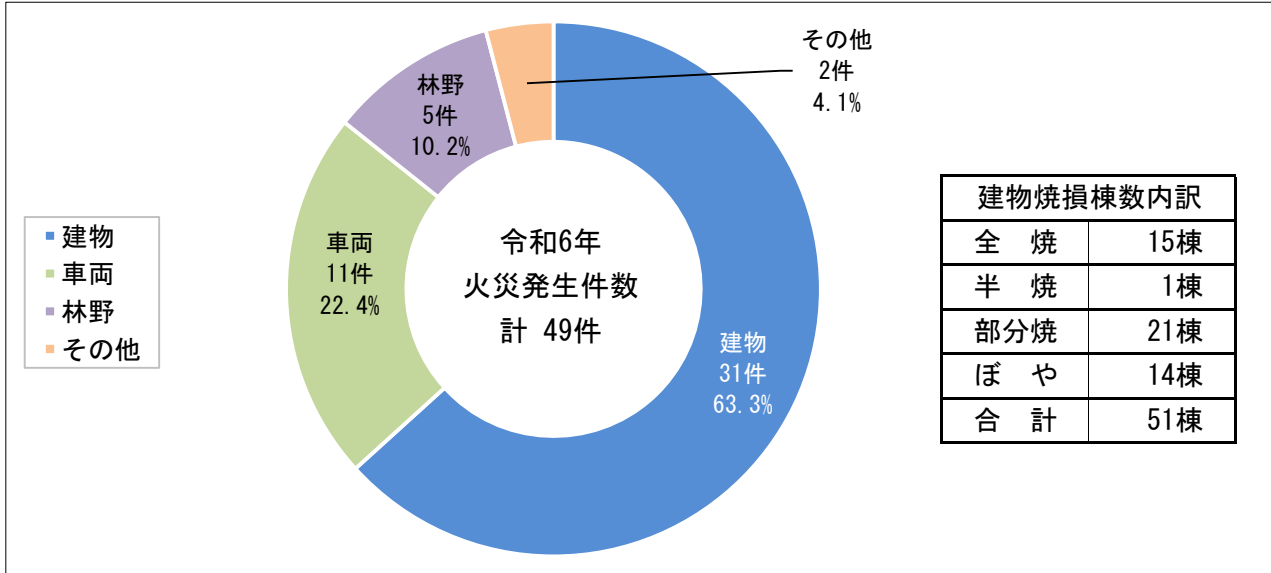
図1 過去10年の火災件数及び火災種別の推移



火災種別ごとの火災件数

火災種別ごとの火災件数は、建物火災が31件(63.3%)で前年より4件減少、車両火災が11件(22.4%)で4件増加、林野火災が5件(10.2%)で4件増加、その他火災が2件(4.1%)で6件減少となっています。(図1・図2)

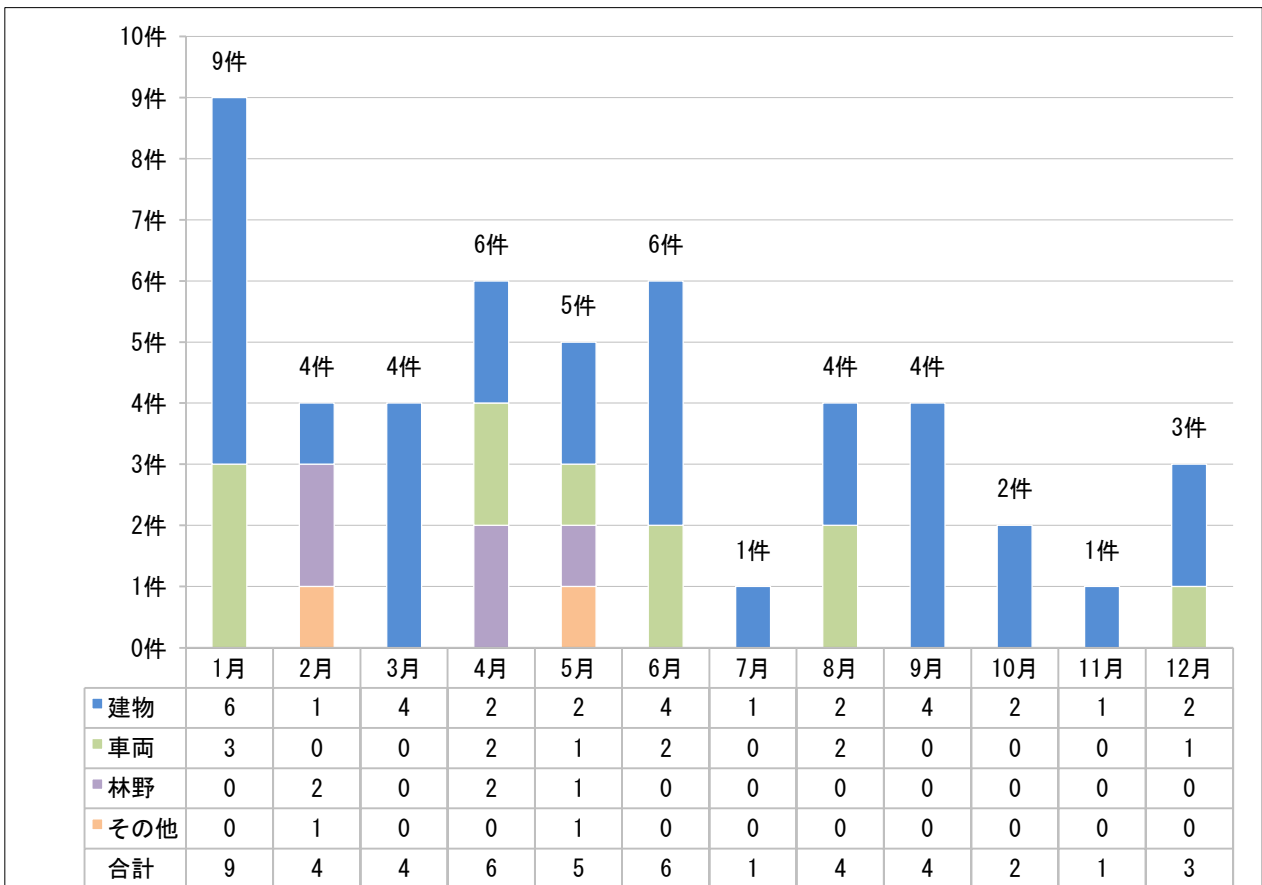
図2 火災発生状況



月別の火災件数

月別の火災件数は、1月に9件の火災が発生し全体の18.4%を占め、うち建物火災が6件発生しています。(図3)

図3 月別火災発生状況



2 死傷者等の発生状況

火災による死者数は3人で、前年より4人減少しています。火災種別ごとの死者数は、建物火災が3人となっています。

火災による負傷者は7人で、前年より4人減少しています。火災種別ごとの負傷者数は、建物火災が3人、車両火災が1人、林野火災が1人、その他火災が2人となっています。（図4・図5）

図4 火災種別死傷者発生状況

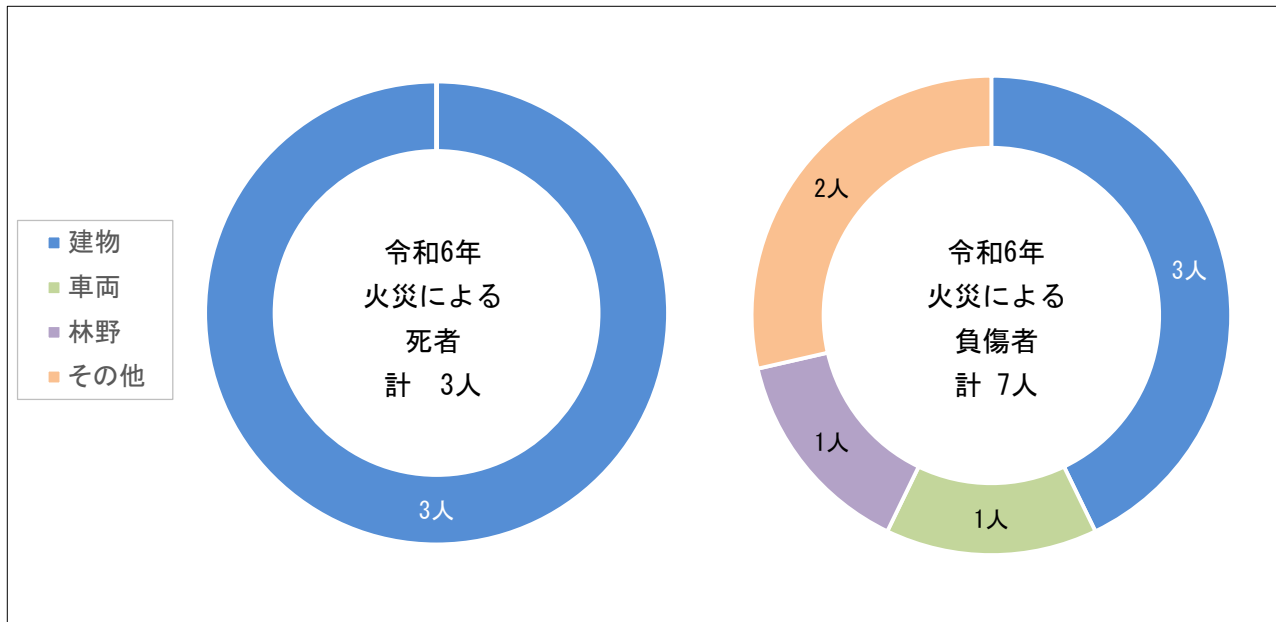
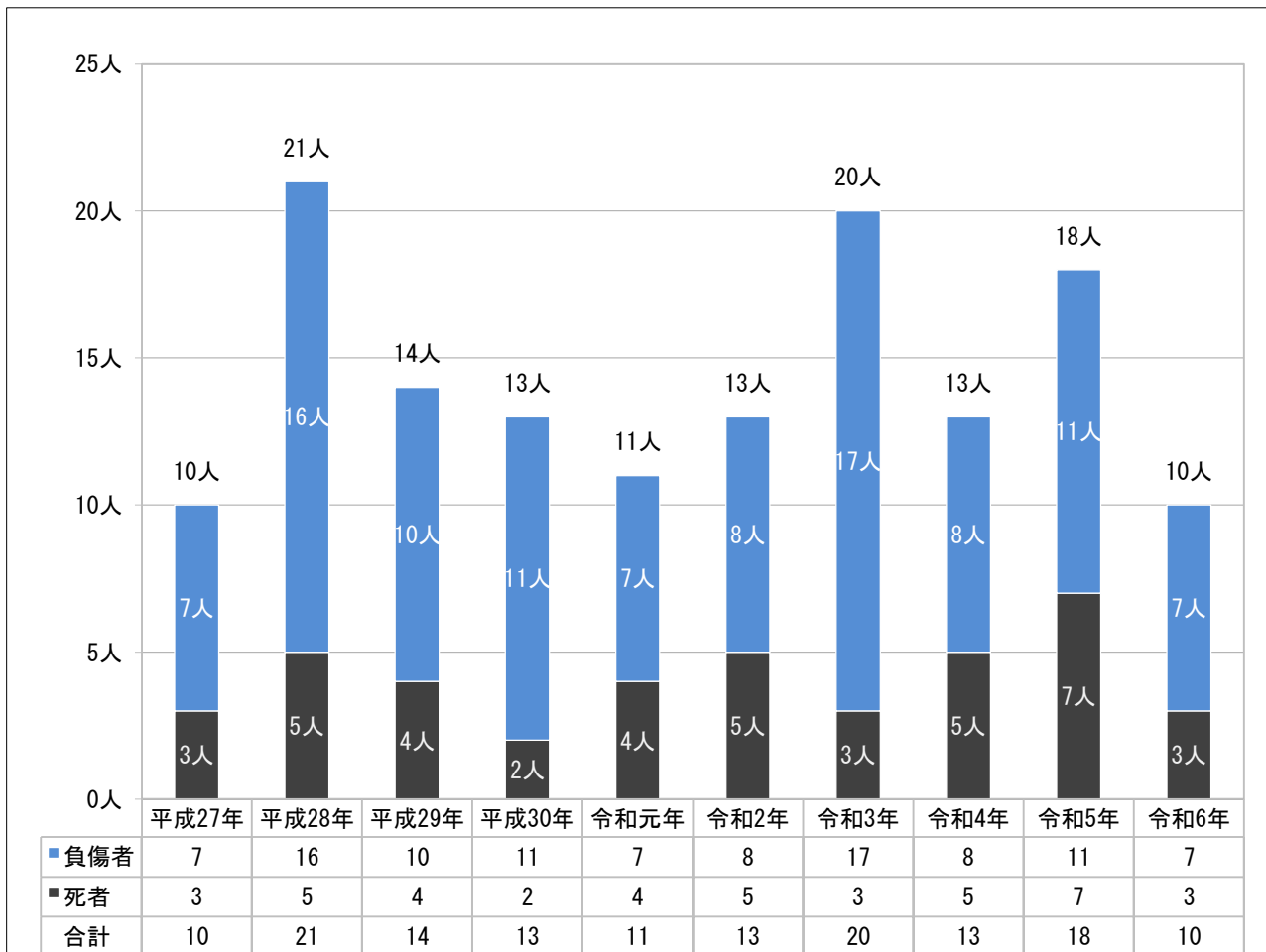


図5 過去10年間の火災による死傷者発生状況



3 損害額・出火率

火災による損害額は70,616千円で前年より212,479千円減少しています。これは統計開始以来、過去最少となっています。

損害額の種別は、建物損害が52,736千円、車両損害が11,071千円、林野損害が236千円、その他損害が6,573千円となっています。

出火率をみると、大崎圏全体は2.63件/万人で、前年と比較すると0.06件/万人減少しています。

市町別にみると、色麻町が4.92件/万人と最も高く、次いで加美町が4.29件/万人、美里町が3.07件/万人、大崎市が2.21件/万人、涌谷町が2.11件/万人となっています。（表3・表4・図6）

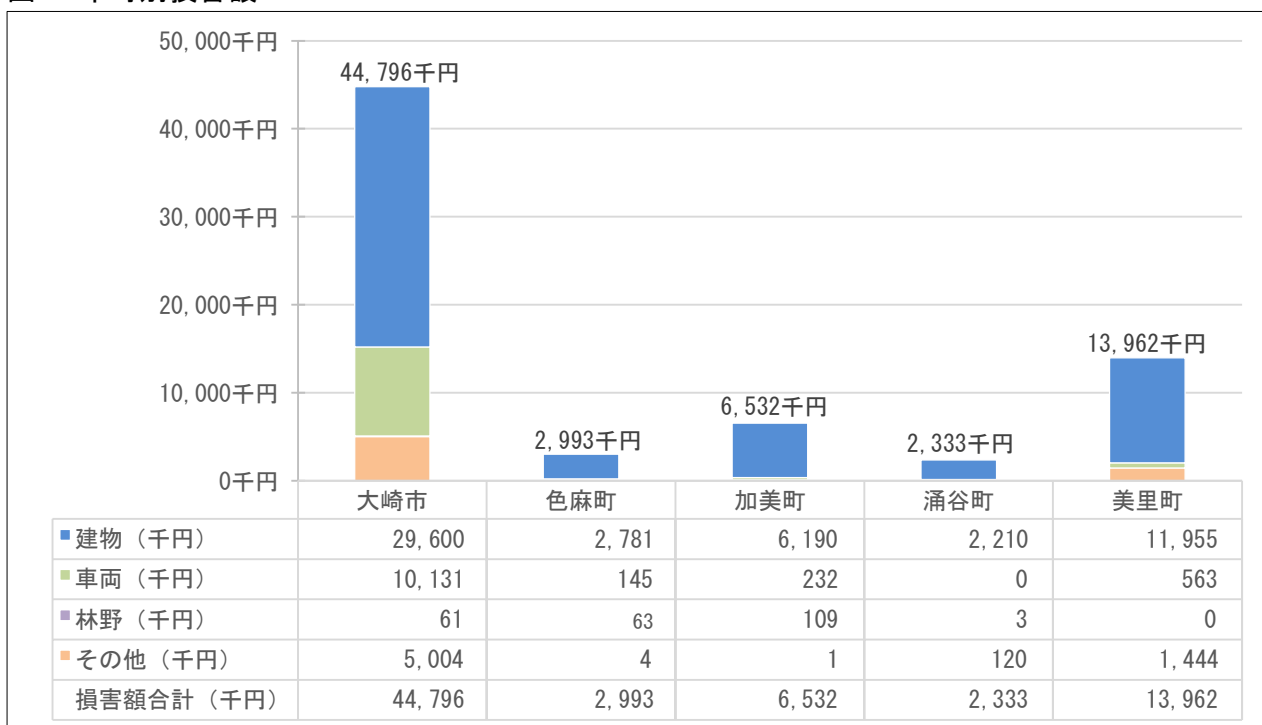
表3 火災種別損害額

	建物損害	車両損害	林野損害	その他損害	計
令和6年	52,736千円	11,071千円	236千円	6,573千円	70,616千円
令和5年	277,833千円	2,517千円	25千円	2,720千円	283,095千円
比較	▲ 225,097千円	8,554千円	211千円	3,853千円	▲ 212,479千円

表4 市町別損害額及び出火率

	一万人 当り 出火率 (件/万人)	損 害 額				焼 損 面 積		
		総額 (千円)	1件当り (千円)	一世帯 当り (円)	一人 当り (円)	建物 面積 (㎡)	1件 当り (㎡)	林野 面積 (a)
大崎市	2.21	44,796	1,659	844	367	825	45.8	25
色麻町	4.92	2,993	998	1,431	490	116	116.0	4
加美町	4.29	6,532	726	791	311	279	69.8	10
涌谷町	2.11	2,333	778	391	164	237	118.5	6
美里町	3.07	13,962	1,995	1,487	612	452	75.3	0
大崎圏全体	2.63	70,616	1,441	896	379	1,909	61.6	45

図6 市町別損害額



4 出火原因

出火原因は、「放火」5件(10.2%)、「火入れ」4件(8.2%)、「こんろ」3件(6.1%)、「ストーブ」3件(6.1%)、「たき火」3件(6.1%)、「たばこ」2件(4.1%)、「煙突・煙道」2件(4.1%)、「排気管」2件(4.1%)、「電灯・電話等の配線」2件(4.1%)、「配線器具」2件(4.1%)の順になっています。(表5)

表5 出火原因

原因	年別	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
たばこ		3	5	6	8	8	2	8	6	3	2
こんろ		2	6	3	4	2	1	1	3	2	3
ストーブ		6	6	1	7	3	5	2	1	2	3
こたつ		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
煙突・煙道		2	0	1	2	2	2	2	1	0	2
排気管		0	4	4	5	1	3	0	0	1	2
電気機器		1	1	1	3	2	0	2	0	4	1
電灯・電話等の配線		7	3	4	2	1	3	3	0	2	2
配線器具		0	3	1	2	3	2	1	4	1	2
火遊び		0	0	2	1	1	0	0	1	0	0
たき火		4	1	0	3	1	2	1	3	4	3
溶接・切断機		1	1	0	0	0	0	0	1	1	0
灯火		1	1	1	2	1	2	0	0	0	0
衝突の火花		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
取灰		2	0	1	1	0	2	2	1	2	1
火入れ		10	4	2	4	2	3	1	5	5	4
かまど		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
風呂かまど		1	0	0	0	0	0	1	1	2	1
炉		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
焼却炉		0	1	0	0	3	2	2	0	0	0
ボイラー		0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
電気装置		0	0	0	0	1	1	1	0	3	0
内燃機関		0	0	1	1	0	0	1	2	0	0
マッチ・ライター		2	2	3	0	1	0	0	0	0	0
放火		6	11	6	2	3	8	3	4	3	5
放火の疑い		4	5	7	9	2	3	0	0	1	0
その他		10	10	14	8	7	13	8	15	11	13
不明		11	20	8	5	6	4	10	8	4	5
合計		74	85	66	70	51	58	49	58	51	49

第2章 救急統計

1 大崎管内における救急業務の実施状況

救急出動件数

令和6年における救急出動件数は、10,050件(前年比101件減)で搬送人員が8,929人(前年比27人増)となっております。これは、月平均で837.5件、一日平均で約27.5件(約52.4分に1件)の割合で救急隊が出動し、管内の約18.5人に1人(約7.8世帯に1人)が救急隊により搬送されたこととなります。(表6・図7)

※大崎管内の世帯数及び人口：78,776世帯,186,183人(令和6年12月)

2 事故種別出動件数及び搬送人員状況

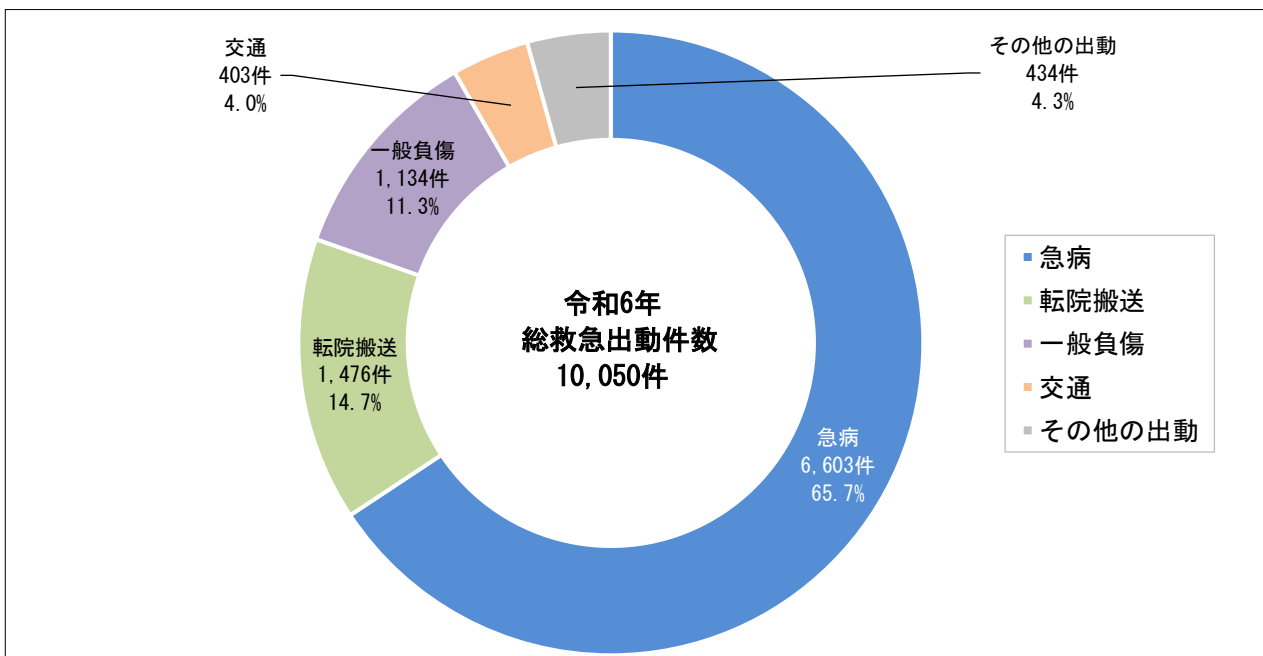
事故種別ごとの出動件数は、急病が6,603件(前年比205件減)と全出動件数の65.7%を占め、次いで転院搬送の1,476件(前年比136件増)、一般負傷の1,134件(前年比19件増)、交通の403件(前年比9件減)の順となりました。

搬送人員は、急病5,833人(前年比129人減)、転院搬送1,474人(前年比140人増)、一般負傷1,030人(前年比42人増)、交通356人(前年比24人減)の順となりました。(表6・図7)

表6 救急出動状況

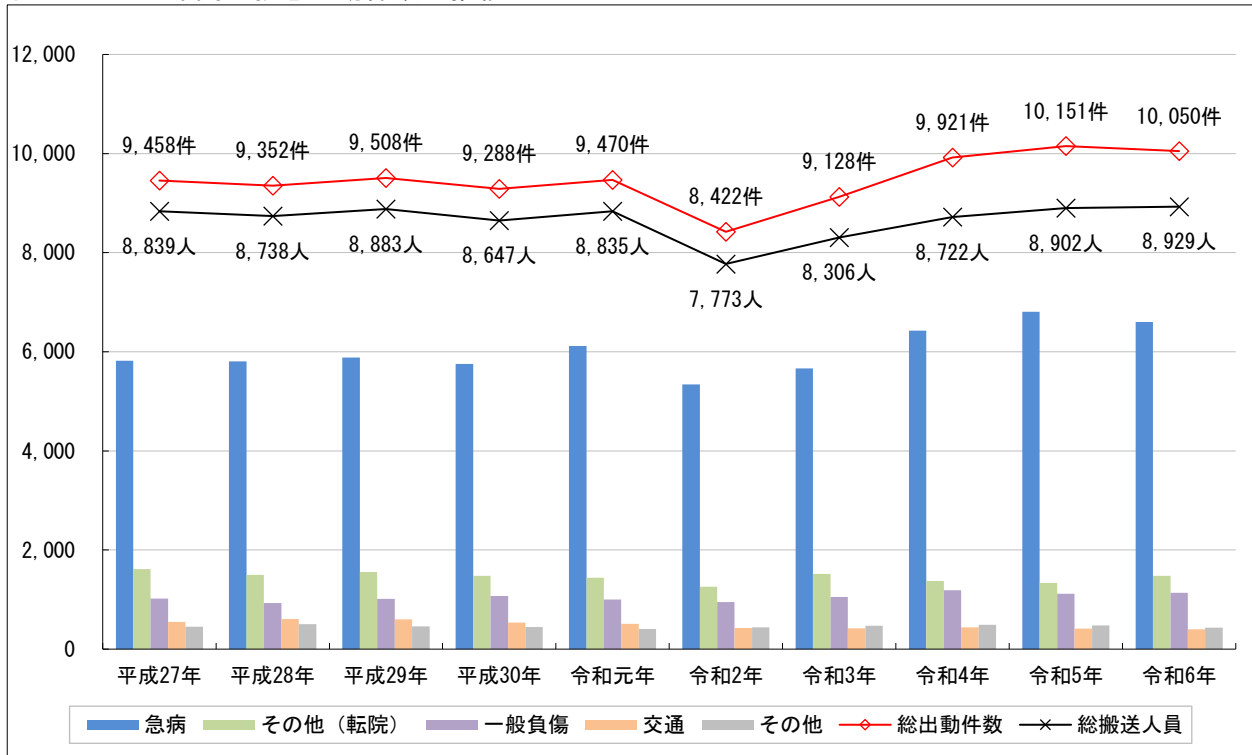
区分	年別比較	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
出動件数	令和6年	10,050	37	1	4	403	76	58	1,134	34	104	6,603	1,476	0	20	100
	令和5年	10,151	48	0	1	412	89	61	1,115	25	92	6,808	1,340	0	21	139
	前年比	▲101	▲11	1	3	▲9	▲13	▲3	19	9	12	▲205	136	0	▲1	▲39
不搬送件数	令和6年	1,171	30	0	4	85	4	2	107	8	32	776	3	0	20	100
	令和5年	1,302	37	0	1	75	2	5	127	5	32	852	6	0	21	139
	前年比	▲131	▲7	0	3	10	2	▲3	▲20	3	0	▲76	▲3	0	▲1	▲39
搬送人員	令和6年	8,929	7	1	0	356	72	57	1,030	27	72	5,833	1,474	0	0	0
	令和5年	8,902	12	0	0	380	88	56	988	22	60	5,962	1,334	0	0	0
	前年比	27	▲5	1	0	▲24	▲16	1	42	5	12	▲129	140	0	0	0

図7 救急出動状況



令和6年は統計開始から過去2番目に多い件数となりました。また、搬送人員は過去最多となりました。（図8）

図8 過去10年間の救急出動件数の推移



3 救急隊別出動状況

救急隊別の出動状況を前年比で見ると、三本木救急隊が46件減、古川第1救急隊が45件減、古川第2救急隊が44件減、田尻救急隊が27件減、加美救急隊が26件減等、合計で101件減少しました。

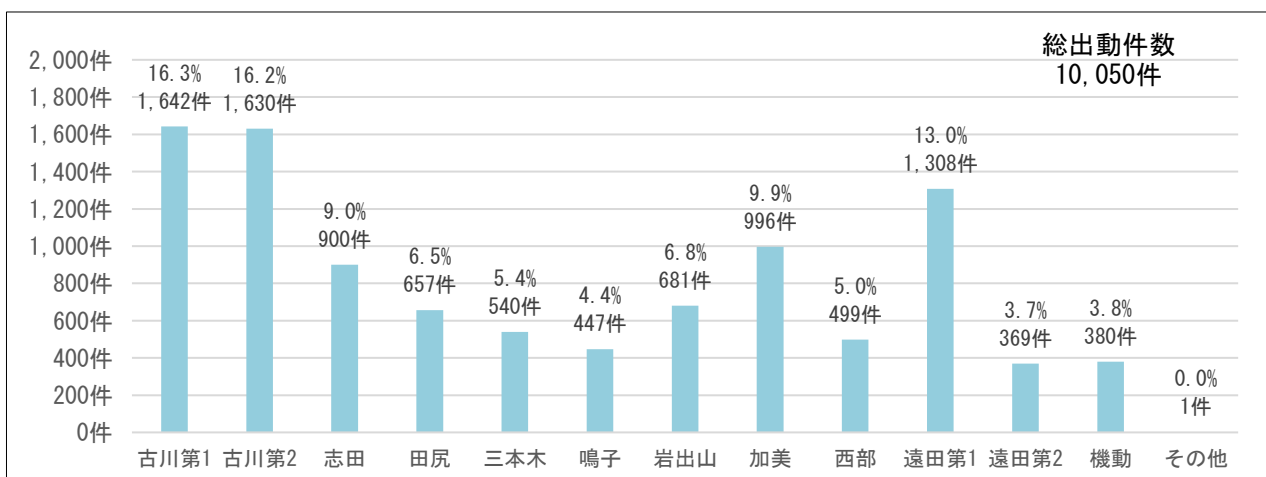
（表7・図9）

表7 救急隊別出動状況

	古川第1	古川第2	志田	田尻	三本木	鳴子	岩出山	加美	西部	遠田第1	遠田第2	機動	その他	合計
令和6年	1,642	1,630	900	657	540	447	681	996	499	1,308	369	380	1	10,050
令和5年	1,687	1,674	914	684	586	442	678	1,022	483	1,320	366	※ 285	10	10,151
比較	▲ 45	▲ 44	▲ 14	▲ 27	▲ 46	5	3	▲ 26	16	▲ 12	3	95	▲ 9	▲ 101

※令和5年4月から運用

図9 救急隊別出動状況

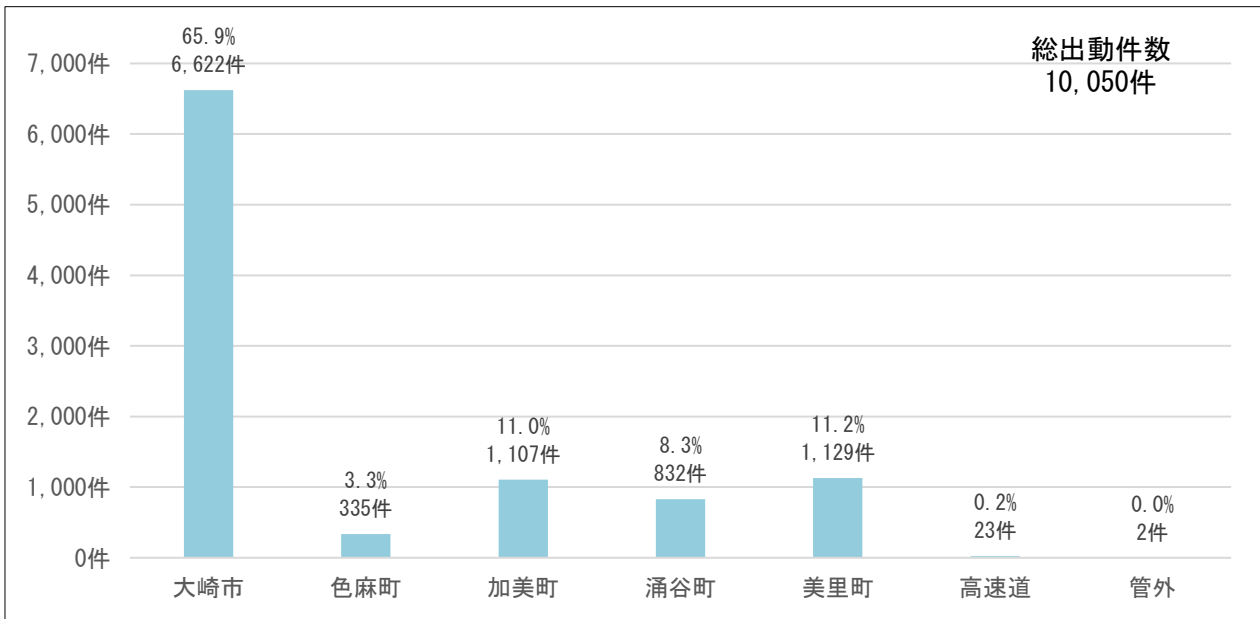


4 市町別出動状況

市町別の出動件数は、大崎市が6,622件、色麻町が335件、加美町が1,107件、涌谷町が832件、美里町が1,129件となりました。

また、高速道(東北自動車道)に23件、管外への出動は2件でした。(図10)

図10 市町別救急出動件数



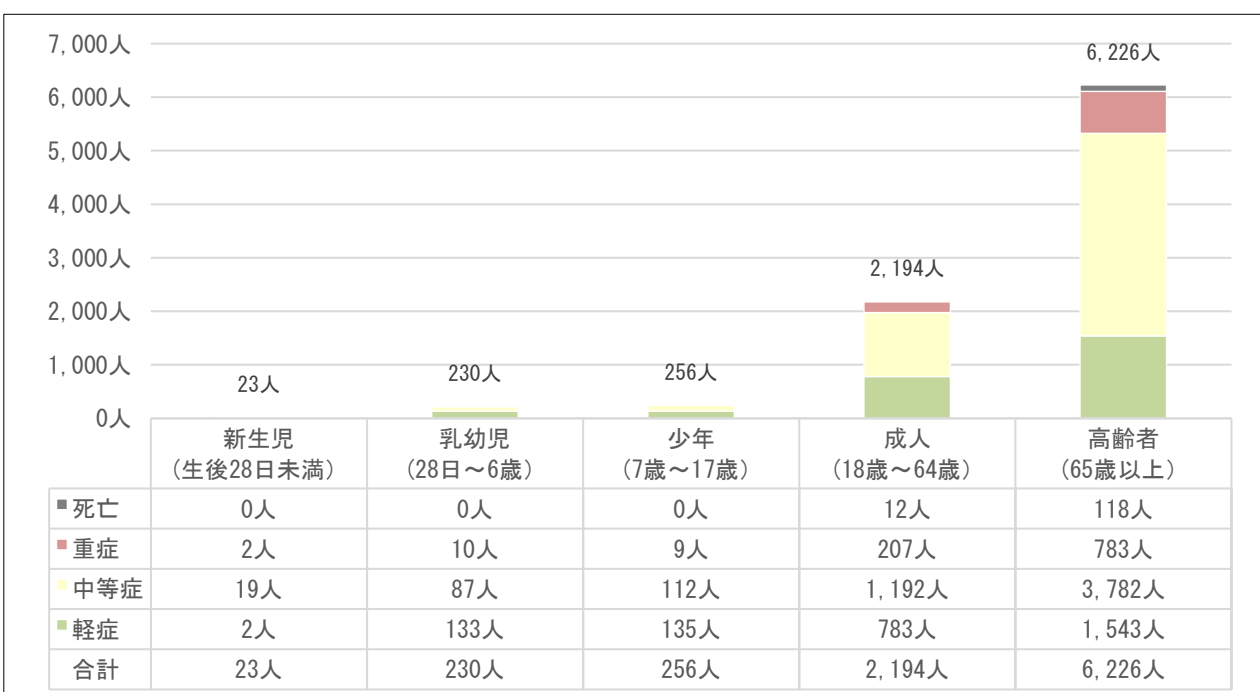
5 傷病程度別、年齢別搬送人員状況

搬送した8,929人の傷病程度は、死亡130人、重症1,011人、中等症5,192人、軽症2,596人と診断されています。

死亡、重症、中等症の傷病者の割合は全体の70.9%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は29.1%となります。

また、年齢別では高齢者(65歳以上)が全体の69.7%を占めました。(図11)

図11 傷病程度別・年齢別搬送人員状況



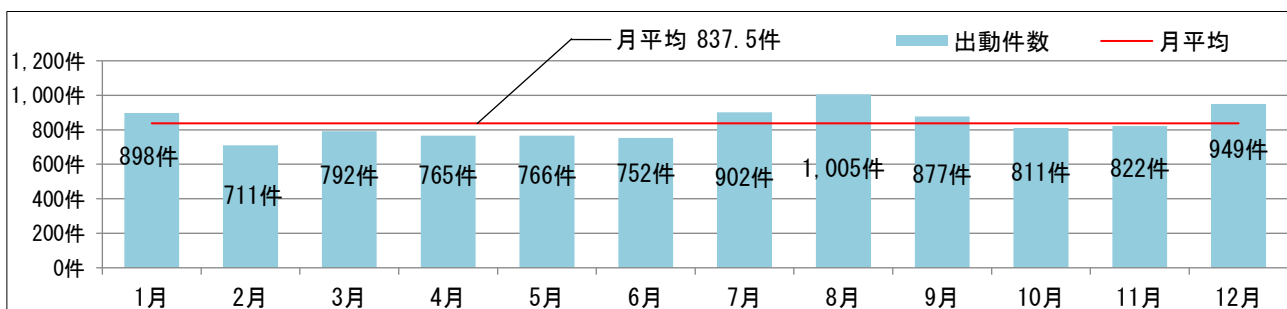
6 月別救急出動状況

救急隊の1か月の平均出動件数は837.5件で、最も多い月は8月で1,005件、次いで12月の949件となっています。(表8・図12)

表8 月別及び事故種別毎出動・搬送等状況

月別	区分	合計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他			
													転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他
1月	出動件数	898	7	1	0	27	3	0	88	3	4	638	113	0	2	12
	搬送件数	774	1	1	0	20	3	0	82	3	3	548	113	0	0	0
	搬送人員	780	1	1	0	26	3	0	82	3	3	548	113	0	0	0
2月	出動件数	711	3	0	0	22	5	1	77	1	11	460	121	0	0	10
	搬送件数	627	2	0	0	17	5	1	65	1	9	406	121	0	0	0
	搬送人員	629	2	0	0	19	5	1	65	1	9	406	121	0	0	0
3月	出動件数	792	5	0	1	27	11	0	86	1	12	539	102	0	3	5
	搬送件数	684	0	0	0	21	9	0	73	1	8	470	102	0	0	0
	搬送人員	685	0	0	0	22	9	0	73	1	8	470	102	0	0	0
4月	出動件数	765	4	0	0	35	5	10	82	4	15	485	117	0	2	6
	搬送件数	682	1	0	0	30	5	10	74	3	13	429	117	0	0	0
	搬送人員	689	1	0	0	36	5	10	74	3	13	430	117	0	0	0
5月	出動件数	766	3	0	1	30	6	4	89	4	6	500	117	0	3	3
	搬送件数	691	1	0	0	23	6	4	82	3	4	452	116	0	0	0
	搬送人員	694	1	0	0	26	6	4	82	3	4	452	116	0	0	0
6月	出動件数	752	5	0	1	37	4	10	85	1	7	470	120	0	1	11
	搬送件数	676	1	0	0	30	4	10	83	1	7	420	120	0	0	0
	搬送人員	681	1	0	0	35	4	10	83	1	7	420	120	0	0	0
7月	出動件数	902	1	0	0	35	8	4	94	3	7	601	133	0	4	12
	搬送件数	807	0	0	0	28	7	4	85	2	4	545	132	0	0	0
	搬送人員	812	0	0	0	30	7	5	86	2	4	545	133	0	0	0
8月	出動件数	1,005	2	0	1	39	14	6	115	7	3	660	142	0	1	15
	搬送件数	871	0	0	0	27	13	6	106	5	2	570	142	0	0	0
	搬送人員	876	0	0	0	31	13	6	106	5	2	571	142	0	0	0
9月	出動件数	877	2	0	0	41	7	7	92	4	15	567	135	0	1	6
	搬送件数	780	0	0	0	36	7	6	81	4	9	502	135	0	0	0
	搬送人員	783	0	0	0	39	7	6	81	4	9	502	135	0	0	0
10月	出動件数	811	2	0	0	40	3	7	97	0	8	502	146	0	1	5
	搬送件数	719	0	0	0	30	3	7	83	0	3	447	146	0	0	0
	搬送人員	724	0	0	0	34	3	7	84	0	3	447	146	0	0	0
11月	出動件数	822	1	0	0	32	8	6	107	2	8	542	106	0	2	8
	搬送件数	733	0	0	0	28	8	5	103	1	6	476	106	0	0	0
	搬送人員	733	0	0	0	28	8	5	103	1	6	476	106	0	0	0
12月	出動件数	949	2	0	0	38	2	3	122	4	8	639	124	0	0	7
	搬送件数	835	1	0	0	28	2	3	110	2	4	562	123	0	0	0
	搬送人員	843	1	0	0	30	2	3	111	3	4	566	123	0	0	0
合計	出動件数	10,050	37	1	4	403	76	58	1,134	34	104	6,603	1,476	0	20	100
	搬送件数	8,879	7	1	0	318	72	56	1,027	26	72	5,827	1,473	0	0	0
	搬送人員	8,929	7	1	0	356	72	57	1,030	27	72	5,833	1,474	0	0	0

図12 月別救急出動件数



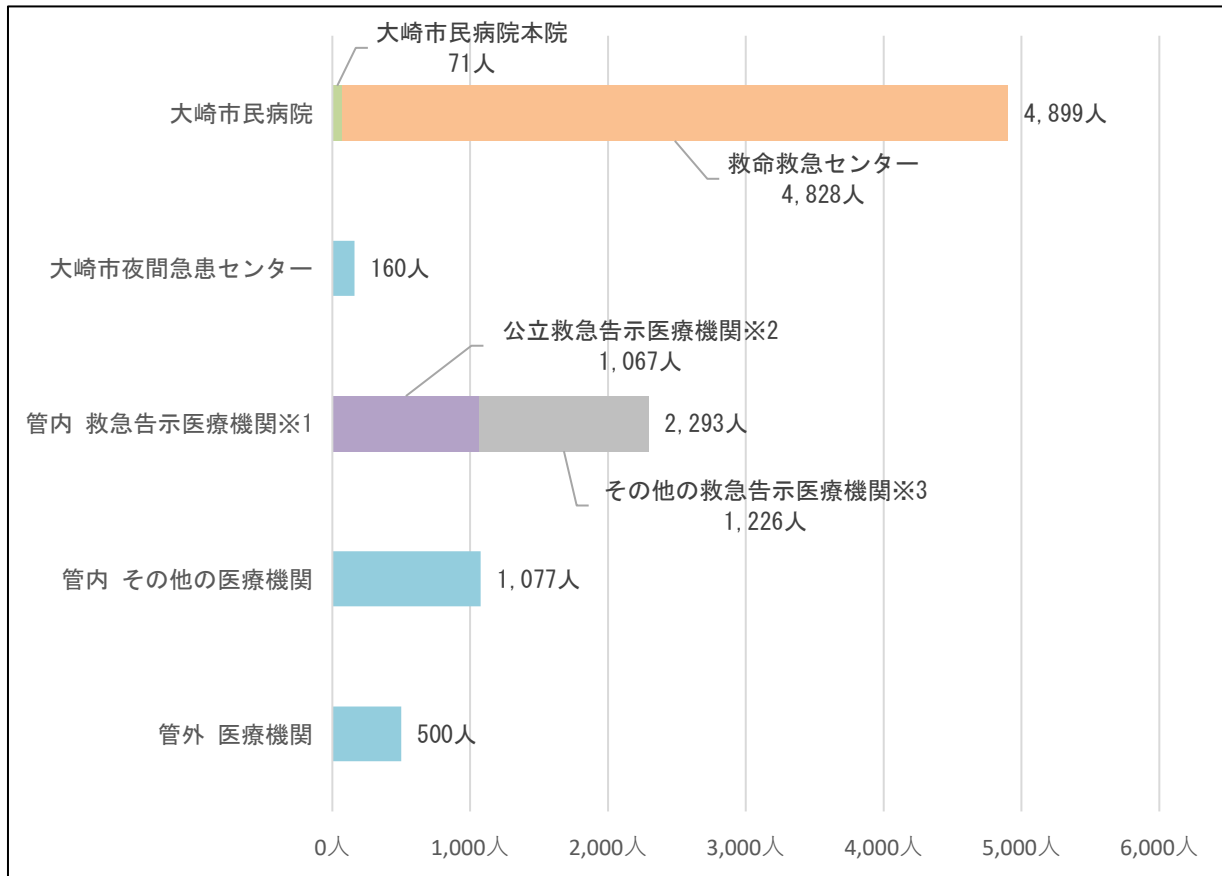
7 収容先別搬送人員状況

収容先別の搬送人員は、大崎市民病院(救命救急センター含む)が最も多い4,899人で、その割合は全搬送人員の54.9%となっています。

また、大崎市夜間急患センターへ160人が搬送されました。

大崎市民病院を除く大崎管内の救急告示医療機関には2,293人が搬送され、そのうち公立の救急告示医療機関には1,067人が搬送されました。(図13)

図13 収容先別搬送人員状況



※1 救急告示医療機関「救急病院等を定める省令」(昭和39年厚生省令第8号)第1条による医療機関令和5年4月1日現在

※2 大崎市民病院鳴子温泉分院, 大崎市民病院岩出山分院, 大崎市民病院鹿島台分院, 涌谷町国民健康保険病院, 美里町立南郷病院, 公立加美病院

※3 古川民主病院, 古川星陵病院, 三浦病院, 徳永整形外科病院, みやぎ北部循環器科, 東泉堂病院

8 ドクターヘリ要請件数状況

令和6年における大崎消防本部のドクターヘリ要請件数は37件で、救急隊と連携し現場活動を実施しているのは31件となり、6件は救急隊の現場判断等によりキャンセルとなっています。

(表9)

表9 ドクターヘリ要請件数

出動先	大崎市							色麻町	加美町			涌谷町	美里町		合計
	古川	松山	三本木	鹿島台	岩出山	鳴子	田尻		中新田	小野田	宮崎		小牛田	南郷	
現場活動	0件	0件	0件	8件	1件	4件	3件	0件	0件	4件	4件	5件	0件	2件	31件
キャンセル	0件	0件	0件	3件	0件	1件	1件	0件	0件	0件	0件	1件	0件	0件	6件
合計	21件							0件	8件			6件	2件		37件

9 救急隊員の行った救急処置状況

令和6年の搬送人員8,929人のうち、救急隊員が応急処置を行った傷病者は8,929人（搬送人員の100%）で、救急処置件数は42,781件となっています。（表10）

表10 救急隊員の行った救急処置件数

事故種別	傷病程度	応急処置 対象人員	止血	固定	人工呼吸	心マッサージ		心肺蘇生	うち自動	酸素吸入	気道確保	経鼻エアウェイ	喉頭鏡・鉗子等	ラリソゲアル マスク等	気管挿管	保温	被覆	小計
						うち自動	うち自動											
急病	死亡	118	0	0	0	0	0	118	87	118	118	2	0	48	4	74	0	428
	重症	610	2	0	15	1	0	125	108	307	175	6	0	78	1	218	2	845
	中等症	3,292	20	28	7	0	0	0	0	523	43	0	0	0	0	791	14	1,426
	軽症	1,813	29	6	0	0	0	0	0	76	8	0	0	0	0	395	8	522
	計	5,833	51	34	22	1	0	243	195	1,024	344	8	0	126	5	1,478	24	3,221
交通事故	死亡	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	5
	重症	27	12	23	0	0	0	2	0	11	3	0	0	1	0	11	7	69
	中等症	169	20	97	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	43	28	191
	軽症	159	14	65	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	19	13	112
	計	356	46	186	0	0	0	3	0	16	4	0	0	2	0	74	48	377
一般負傷	死亡	4	0	0	0	0	0	4	3	4	4	0	1	2	1	2	0	14
	重症	63	4	17	0	0	0	10	8	15	12	0	3	5	1	11	7	76
	中等症	567	80	123	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	145	92	468
	軽症	396	93	53	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0	0	75	111	343
	計	1,030	177	193	0	0	0	14	11	57	17	0	4	7	2	233	210	901
上記以外	死亡	7	0	2	0	0	0	7	7	7	7	2	0	4	0	3	0	26
	重症	311	2	8	1	0	0	8	7	128	14	2	0	4	1	94	4	259
	中等症	1,164	21	42	3	0	0	0	0	234	6	0	0	0	0	295	23	624
	軽症	228	15	13	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	45	18	114
	計	1,710	38	65	4	0	0	15	14	392	27	4	0	8	1	437	45	1,023
合計	死亡	130	0	3	0	0	0	130	97	130	130	4	1	55	5	80	0	473
	重症	1,011	20	48	16	1	0	145	123	461	204	8	3	88	3	334	20	1,249
	中等症	5,192	141	290	10	0	0	0	0	788	49	0	0	0	0	1,274	157	2,709
	軽症	2,596	151	137	0	0	0	0	0	110	9	0	0	0	0	534	150	1,091
	計	8,929	312	478	26	1	0	275	220	1,489	392	12	4	143	8	2,222	327	5,522

事故種別	傷病程度	応急処置 対象人員	在宅療法継続			ショックパニックによる 血圧の保持	除細動	静脈路確保 (CPA前)	静脈路確保 (CPA後)	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	血圧測定	聴診器による心音・ 呼吸音の聴取	血中酸素飽和 度の測定	心電図	伝送	その他の 応急処置	小計	総計	
			※A	※B	※C																
急病	死亡	118	1	0	1	0	5	0	47	23	0	0	4	97	12	114	0	107	410	838	
	重症	610	12	1	0	11	0	13	15	66	49	32	2	501	281	509	587	53	578	2,645	3,490
	中等症	3,292	27	1	2	24	0	0	31	0	0	77	12	3,260	1,008	3,290	3,115	208	3,289	14,109	15,535
	軽症	1,813	11	0	0	11	0	0	10	0	0	21	7	1,773	452	1,813	1,638	42	1,811	7,536	8,058
	計	5,833	51	2	3	46	0	18	56	113	72	130	21	5,538	1,838	5,624	5,454	303	5,785	24,700	27,921
交通事故	死亡	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	5	10	
	重症	27	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	26	23	26	27	0	26	129	198	
	中等症	169	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	169	79	168	151	0	169	737	928	
	軽症	159	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153	58	156	119	0	159	645	757	
	計	356	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	348	161	350	298	0	355	1,516	1,893	
一般負傷	死亡	4	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	4	0	4	0	4	15	29	
	重症	63	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	53	20	55	49	1	61	245	321	
	中等症	567	1	0	0	1	0	0	4	0	0	0	562	119	567	490	0	567	2,310	2,778	
	軽症	396	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	379	64	393	285	0	395	1,518	1,861	
	計	1,030	3	0	0	3	0	2	4	5	3	0	994	207	1,015	828	1	1,027	4,088	4,989	
上記以外	死亡	7	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	1	7	1	7	0	5	26	52	
	重症	311	1	0	1	0	0	0	5	4	0	0	302	61	305	289	12	307	1,274	1,533	
	中等症	1,164	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1,142	208	1,161	1,058	34	1,160	4,730	5,354	
	軽症	228	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	226	47	228	196	6	228	925	1,039	
	計	1,710	2	0	2	0	0	0	8	6	0	0	1,671	323	1,695	1,550	52	1,700	6,955	7,978	
合計	死亡	130	1	0	1	0	7	0	52	26	0	0	5	109	13	126	0	117	456	929	
	重症	1,011	13	1	1	11	0	13	16	75	56	32	2	882	385	895	952	66	972	4,293	5,542
	中等症	5,192	29	1	3	25	0	0	35	0	0	78	12	5,133	1,414	5,186	4,814	242	5,185	21,886	24,595
	軽症	2,596	13	0	0	13	0	0	10	0	0	21	7	2,531	621	2,590	2,238	48	2,593	10,624	11,715
	計	8,929	56	2	5	49	0	20	61	127	82	131	21	8,551	2,529	8,684	8,130	356	8,867	37,259	42,781

在宅療法継続欄

※Aには、在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴が施されている傷病者に対して応急処置等を行った件数

※Bには、気管切開孔又は気管瘻・人工肛門等の外瘻が施されている傷病者に対して応急処置を行った件数

※Cには、※A・※B以外の在宅療法継続中の傷病者に対して応急処置を行った件数

10 PA連携出動状況

PA連携とは、消防ポンプ自動車（Pumper）が、救急要請内容により出動し、救急車（Ambulance）の活動を支援する連携活動のことで、双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

当消防本部では、平成18年2月1日から心肺機能停止傷病者等に、いち早く応急処置を行うため、直近のポンプ車が救急車より先に到着すると判断した場合、ポンプ車隊を出動させ、救急活動を支援する連携活動を行っています。

令和6年におけるPA連携出動件数は52件で前年比10件の増加となります。発生場所は、住居が36件と最も多く全出動件数の69.2%となっています。（図14・図15・図16）

図14 PA連携署所別ポンプ車出動状況

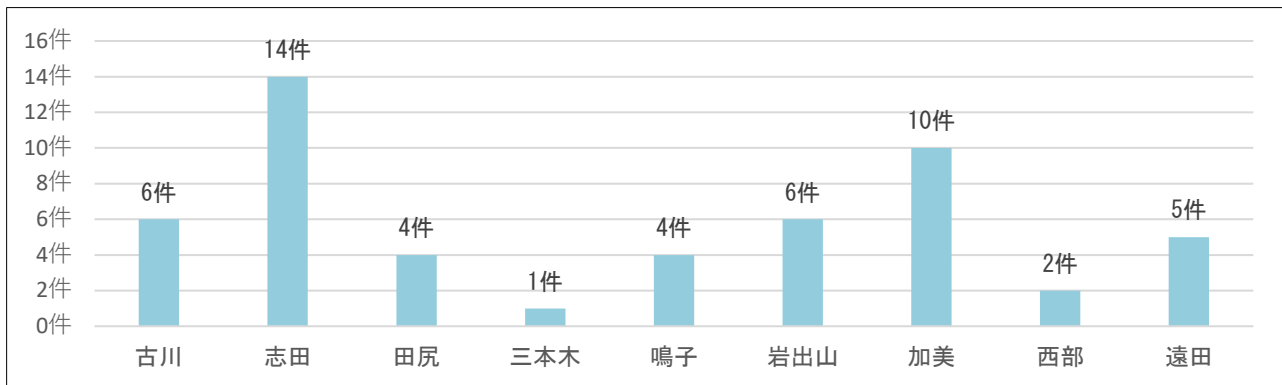


図15 PA連携発生場所

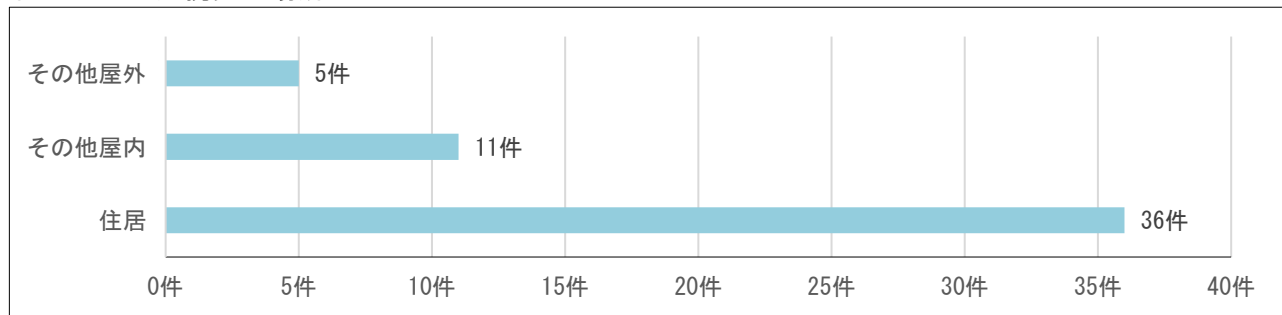
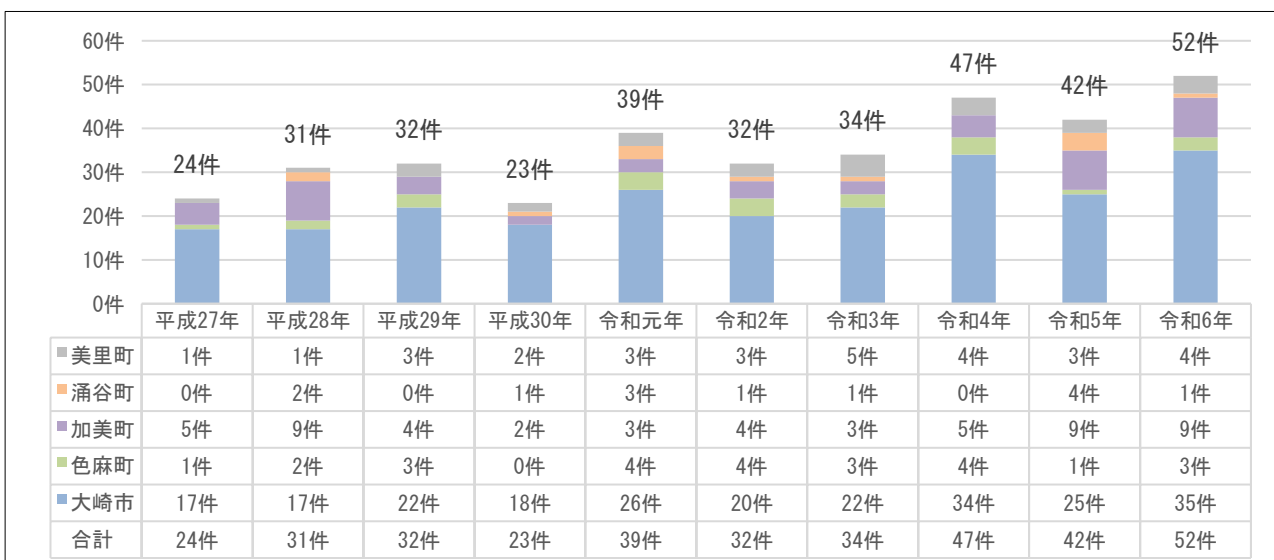


図16 過去10年間のPA連携出動件数



第3章 応急手当講習会等の概要

1 講習会の開催状況

令和6年における応急手当講習会等実施状況は、地域住民、学校、事業所等を対象に、普通救命講習141回(2,094人)、上級救命講習7回(115人)、普及員講習1回(9人)、救命入門コース161回(3,094人)、応急手当講習49回(1,155人)、合計359回を開催することができ、6,467人が受講しております。

また、令和2年から新しい講習スタイルとして、WEB講習(e-ラーニング)を導入いたしました。インターネット上で応急手当の重要性や心肺蘇生法等の知識を事前に学習していただくことで、上級救命講習及び普通救命講習の座学講習を1時間短縮することができるようになっております。(表11)

表11 講習会別受講人員

種 別	開催回数	受講人員	内 容
普通救命講習会	141回	2,094人	心肺蘇生法(成人)・大出血時の止血等の講習 (講習時間3時間)
うちWEB講習	50回	701人	(講習時間2時間)
上級救命講習会	7回	115人	心肺蘇生法(成人・小児・乳児)・大出血時の止血・傷病者管理・外傷手当・搬送法等の講習(講習時間8時間)
普及員講習会	1回	9人	事業所・地域団体等の従業員に対して、普通救命講習を指導できるための講習 (講習時間24時間)
救命入門コース	161回	3,094人	対象者を小学生中高学年以上(概ね10歳以上)とし、カリキュラムは胸骨圧迫とAEDの使用法
応急手当講習会	49回	1,155人	病気・ケガ・事故等の時、医師の治療を受けるまでの簡単な応急手当の講習
合 計	359回	6,467人	

2 性別・年齢別受講者状況

受講者の年齢構成は、10歳代が最も多く、次いで40歳代、50歳代の順となっています。

性別構成は、男性が2,387人（44.9%）、女性が2,925人（56.1%）となっています。

男女共に中高生の普通救命講習会の参加者が多い結果となりました。（表12）

表12 講習会別・性別・年齢別受講人員

種別	年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
	性別									
普通救命講習会	男	377	144	126	189	141	100	37	3	1,117
	女	370	67	97	134	127	127	51	4	977
	合計	747	211	223	323	268	227	88	7	2,094
上級救命講習会	男	5	5	12	11	7	3	7	0	50
	女	38	10	3	9	5	0	0	0	65
	合計	43	15	15	20	12	3	7	0	115
普及員講習会	男	0	0	0	1	1	2	0	0	4
	女	0	0	1	1	2	1	0	0	5
	合計	0	0	1	2	3	3	0	0	9
救命入門コース	男	455	146	134	173	171	106	26	5	1,216
	女	384	274	340	319	293	200	62	6	1,878
	合計	839	420	474	492	464	306	88	11	3,094
合計	男	837	295	272	374	320	211	70	8	2,387
	女	792	351	441	463	427	328	113	10	2,925
	合計	1,629	646	713	837	747	539	183	18	5,312

3 講習会開催の推移

平成9年から開催してきた各種救命講習会の総受講者数は、令和6年までの28年間で86,236人となっています。（表13）

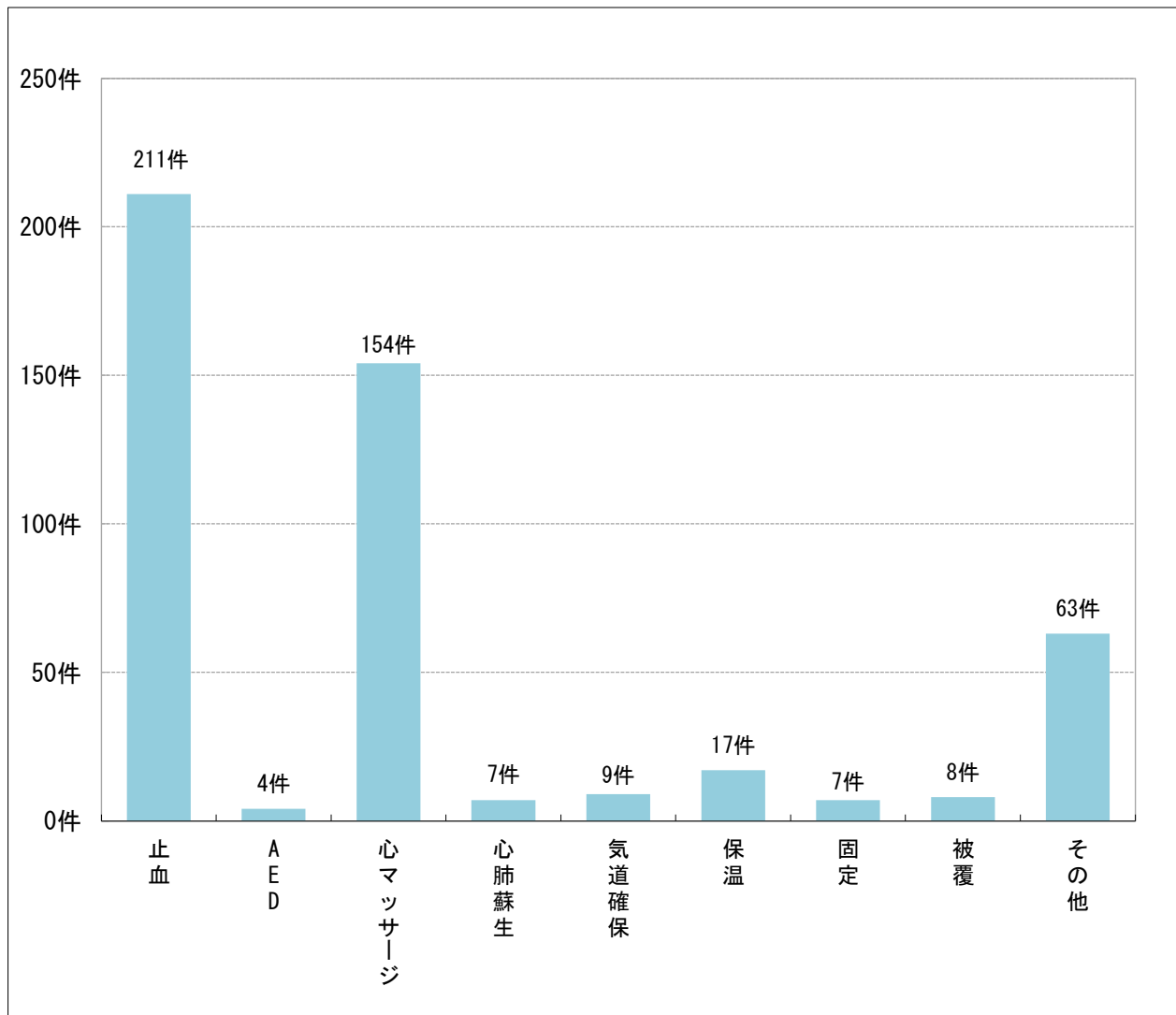
表13 講習会別開催回数・受講人員（平成9年～令和6年）

種別	年別	回数	性別		合計
			男性	女性	
普通救命講習会	平成9～26年	2,443	25,330	26,644	51,974
	平成27年	173	1,556	1,664	3,220
	平成28年	146	1,380	1,270	2,650
	平成29年	185	1,978	1,632	3,610
	平成30年	150	1,445	1,506	2,951
	令和元年	149	1,592	1,359	2,951
	令和2年	103	797	543	1,340
	令和3年	84	500	463	963
	令和4年	21	104	93	197
	令和5年	132	1,035	1,032	2,067
	令和6年	141	1,117	977	2,094
小計	3,727	36,834	37,183	74,017	
上級救命講習会	平成11～26年	96	1,006	1,895	2,901
	平成27年	7	56	96	152
	平成28年	8	88	113	201
	平成29年	6	76	92	168
	平成30年	7	47	94	141
	平成元年	5	28	80	108
	令和2年	1	8	9	17
	令和3年	0	0	0	0
	令和4年	1	5	1	6
	令和5年	5	23	59	82
	令和6年	7	50	65	115
小計	143	1,387	2,504	3,891	
普及員講習会	平成12～26年	20	153	234	387
	平成27年	2	17	2	19
	平成28年	1	5	2	7
	平成29年	1	6	2	8
	平成30年	2	2	11	13
	令和元年	1	5	4	9
	令和2年	0	0	0	0
	令和3年	0	0	0	0
	令和4年	0	0	0	0
	令和5年	1	5	1	6
	令和6年	1	4	5	9
小計	29	197	261	458	
救命入門コース	平成24～26年	12	236	280	516
	平成27年	6	125	113	238
	平成28年	9	147	170	317
	平成29年	11	206	177	383
	平成30年	9	125	118	243
	令和元年	40	452	502	954
	令和2年	22	154	203	357
	令和3年	17	95	124	219
	令和4年	5	31	50	81
	令和5年	76	532	936	1,468
	令和6年	161	1,216	1,878	3,094
小計	368	3,319	4,551	7,870	
合計	4,267	41,737	44,499	86,236	

4 講習会の効果

これまで実施してきた応急手当講習会等の効果として、令和6年における救急出動のうち、救急隊が傷病者のもとへ到着するまでに家族や友人、さらには傷病者の近くにいた住民等による応急手当が480件実施されました。（図16）

図16 住民が行った応急処置件数



また、救急隊が搬送した277人の心肺機能停止傷病者に対して、住民等により心肺蘇生または心マッサージが実施された傷病者は150人(54.2%)で、そのうち救急隊が傷病者を医師に引き継いだ時点で15人(10.0%)の方の心拍が再開しました。

第4章 救助統計

1 救助業務の概況

令和6年における救助出動件数は43件で前年に比べ5件減少し、救助人員は22人で前年に比べ10人減少となっています。これは、約8.5日に1件の割合で出動したことになります。地区別の出動件数は、大崎市21件、色麻町2件、加美町8件、涌谷町2件、美里町8件、高速道（管内）2件となっています。（表14、表15）

事故種別ごとでは、「交通事故」が34件と出動件数全体の79.1%を占め最も多く、続いて「その他」が6件（14.0%）、「水難事故」が2件（4.7%）となっています。（図17・図18）

表14 地区別救助出動件数前年比較（単位：件）

	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 （管内）	高速道 （管外）	合計
令和6年	21	2	8	2	8	0	2	0	43
令和5年	36	2	3	2	5	0	0	0	48
比較	▲ 15	0	5	0	3	0	2	0	▲ 5

表15 地区別救助人員数前年比較（単位：人）

	大崎市	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	管外	高速道 （管内）	高速道 （管外）	合計
令和6年	10	1	5	1	4	0	1	0	22
令和5年	25	1	3	2	1	0	0	0	32
比較	▲ 15	0	2	▲ 1	3	0	1	0	▲ 10

図17 種別ごと 救助出動件数及び救助人員

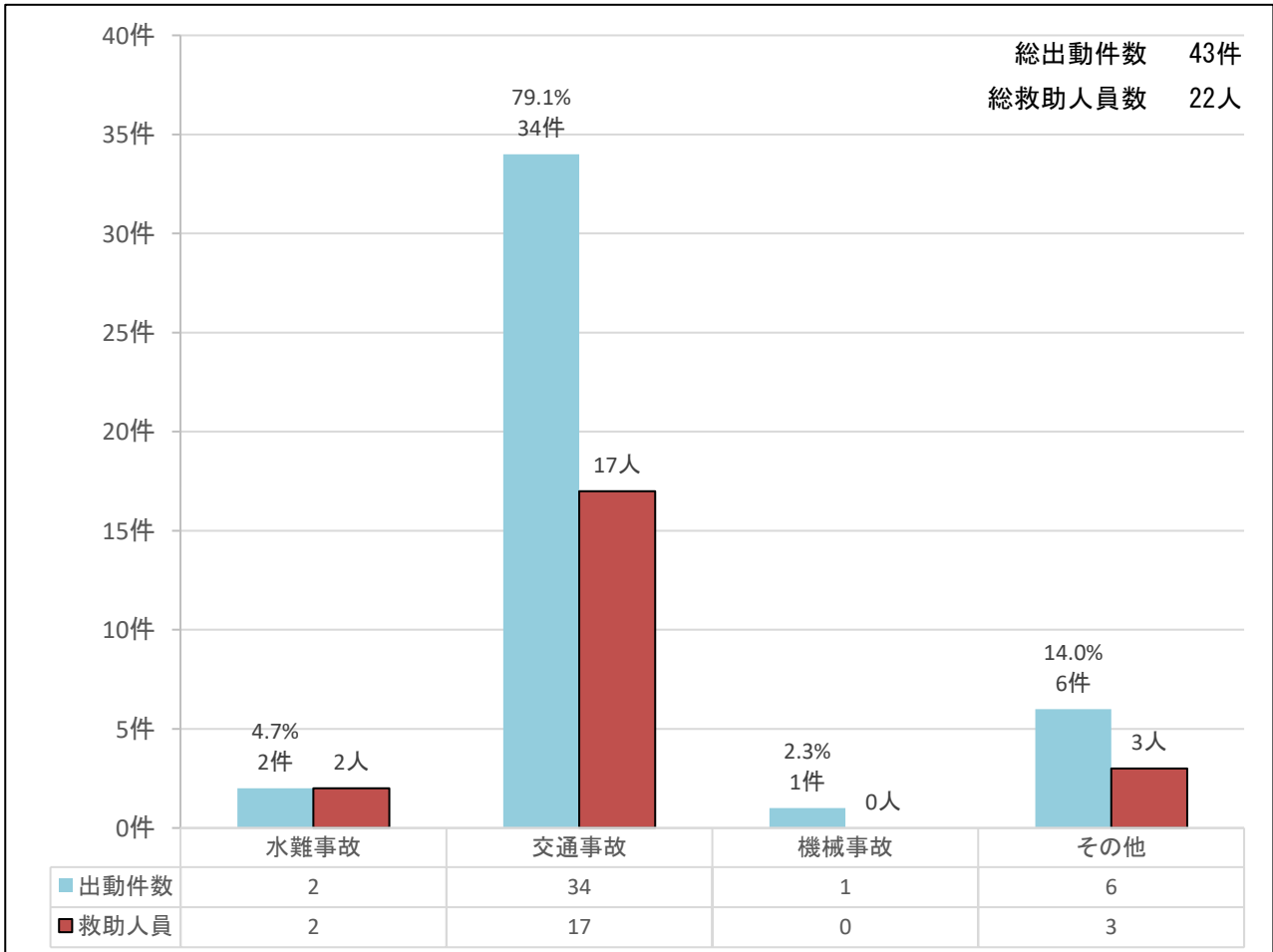
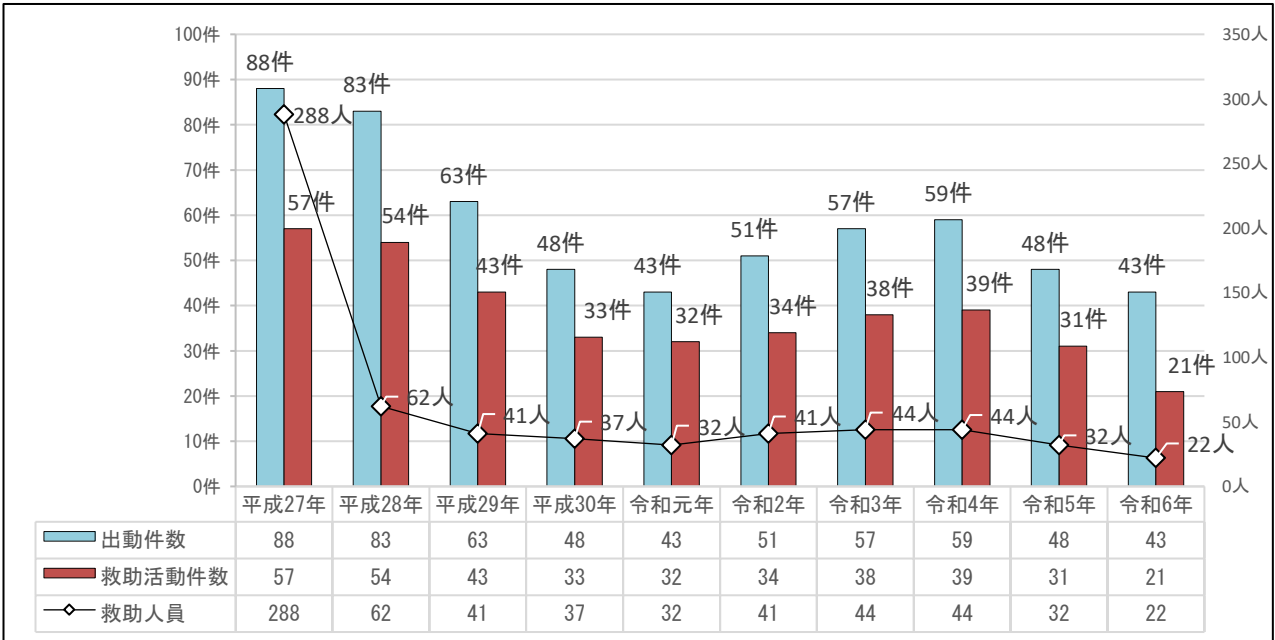


図18 過去10年間の救助出動件数



2 救助人員の傷病程度

救助事案で発生した傷病者の傷病程度は、死亡4人（前年比4人減）、重症3人（前年比1人増）、中等症8人（前年比4人増）、軽症3人（前年比2人減）、その他4人（前年比4人増）となっています。（表16）

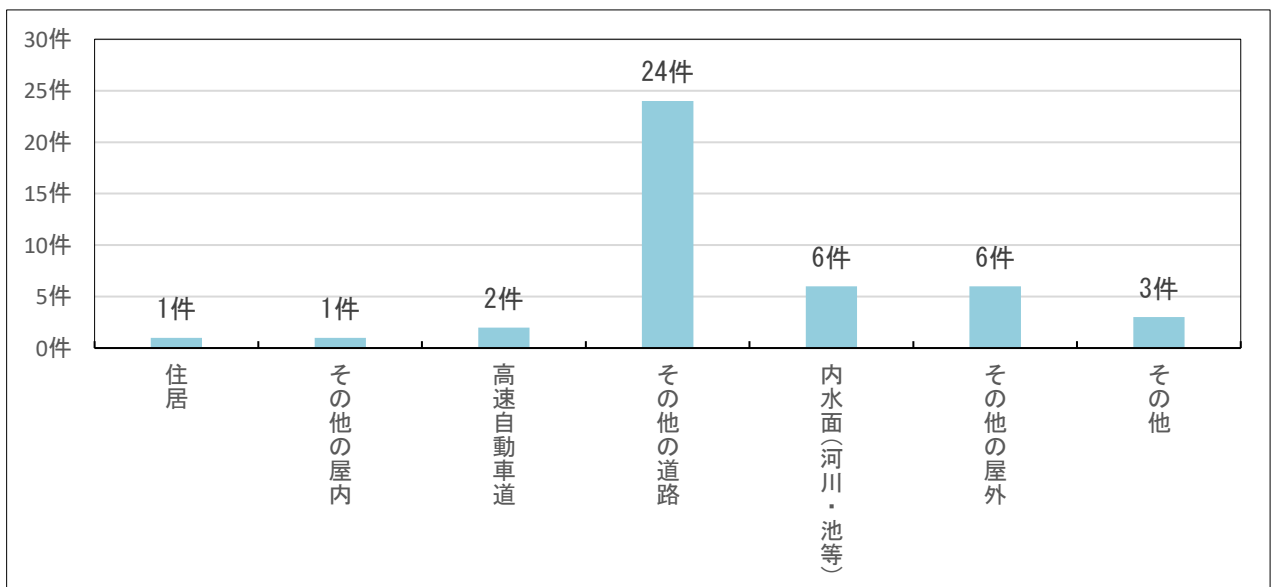
表16 救助人員傷病程度前年比較

	死亡	重症	中等症	軽症	不搬送	合計
令和6年	4	3	8	3	4	22
令和5年	8	2	4	5	0	19
比較	▲ 4	1	4	▲ 2	4	3

3 救助事案発生場所

発生場所については「その他の道路」が24件(55.8%)、次いで、「内水面(河川・池等)」が6件(14.0%)、「その他の屋外」が6件(14.0%)となっています。（図19）

図19 発生場所別出動件数





令和6年 消防統計

令和7年2月
大崎消防本部 警防課

